



大西さとし 市議会だより

2012.07
No.005

高松市議会

平成 24 年度 第3回 (6月) 定例会の報告

高松市議会は、6月11日から25日の15日間、平成24年第3回定例会（6月議会）を開催し、平成24年度一般会計補正予算など24議案を可決し、陳情1件を継続審査としたほか、人事案件1件に同意しました。

また、本議会では、私自身3度目となる一般質問を行い、「若年者の雇用対策」「次世代育成支援対策」などについて、行政の考えを質しました。

今後とも、みなさまの声を市政に反映するため、全力で取組む所存です。引き続きのご支援、よろしくお願い申し上げます。

大西 智



第3回(6月)定例会「大西さとし」一般質問の概略(抜粋)

◆若年者雇用対策について

○「雇用対策における本市が担うべき役割」についての所見

<質問>

世界で最も早く、少子超高齢化社会を迎える我が国の雇用情勢は、長引く景気低迷のなか、将来に向け持続可能な社会を実現して行くために、解決を迫られている重要な課題が山積している。

依然厳しい雇用情勢のなか本県の状況は、「有効求人倍率は、全国3位」「正社員有効求人倍率は、全国4位」と、課題は多いものの全国的な比較においては、比較的高い優位性を持っている。本市として、この優位性を更に高め戦略的に活用することで、雇用の充実した都市としてのブランド力が高まり、人口吸引力の向上による定住人口の拡大など、四国のリーディングシティとしての更なる成長に繋がるのではないかと。

雇用対策については、国、県はもとより、関係各所との綿密な連携が必要であることから、雇用対策における、本市が担うべき役割についての所見は。

<答弁者：大西市長>

本市では、総合計画において、「人がにぎわい活力あふれるまち」を、まちづくりの目標の一つに掲げ、地域経済の活性化に取り組んでいる。

このような中、雇用の創出については、県の緊急雇用創出基金事業などを積極的に活用し、全庁体制で新規雇用機会の創出にも取り組んできたほか、新規学卒者や未就職者等を対象とした「就活応援・適職相談」などを開設して、求職者への職の紹介や、就労者の悩み相談等に取り組んでいるところである。

雇用情勢は、依然として厳しい状況ではあり、中でも、新規学卒者等を始め、若年者の就職支援対策は特に重要であり、市民に最も身近な行政として、本市がリーダーシップを発揮し、引き続き国や県等とより緊密な連携を図り、情報を共有化しながら、雇用状況の更なる改善が図られるよう、取り組んでいく。

○若年者雇用のミスマッチを解消するための取り組みを実施する考え

<質問>

「企業の求める人材と学生の意識に乖離」いわゆる雇用のミスマッチが、若年者の完全失業率の高さや雇用情勢悪化の大きな要因の一つとなっている。

学生の就職に対する行動における新たな動きとして、地方に関心を持つ学生が増えており、また中小企業を目指す学生が増えている。しかしながら、県内就職をサポートする雇用対策事業を多くの学生が知らない状況である。

新卒者に対する、県内の求人倍率をみると、多くの企業が次代を担う人材の確保を求めている。雇用のマッチングを促進することで、次代を担う若年者の雇用確保や安定化、産業人材の確保が図られ、結果、本市における持続可能な社会の構築に繋がるのではないかと。

市民に最も近い存在の基礎自治体である本市として、若年者雇用のミスマッチを解消するための取り組みを実施することについての考えは。

<答弁者：宮武 創造都市推進局長>

本市では、新規学卒者や未就業者等を対象として、ハローワーク高松など、関係機関の協力の下、春と秋の年二回、市役所一階市民ホールにおいて「就活応援・適職相談」を実施するとともに、高松商工会議所や香川労働局等と連携し、就職面接会「かがわーくフェア」を開催している。

今後においても、国や県などの関係機関と、これまで以上に緊密な連携を図り、若者の雇用のミスマッチの解消を図っていく。

○本市にある企業・団体や、社会のさまざまな分野で活躍している人を、教育の場に活用していく考えについて

<質 問>

若年者の完全失業率は、他の年代と比較して高い状況にあり、新規学卒就職者のうち就職後3年以内に約3割の者が離職している状況も、失業率の高さの要因となっている。

離職する要因は、積極的な理由にもとづくケースもあるが、一方で、仕事内容や労働条件などに対する不満にもとづくケースもある。また、その根底には、教育課程において持っていた職業生活に対する理想と現実の間に、様々なギャップが存在することが要因であると推察される。

このような情勢の中、教育の場から労働の場への円滑な接続を実現する必要があるのではないか。そのためには、子供の成長過程にあわせて、働くことの意義や、働くことを通じて社会に貢献できることなどを、学ぶ場を設ける必要があるのではないか。

我が高松市には、中小問わず誇れる魅力的な企業や団体が多数存在しており、また、本市から巣立ち、社会の中で大きな役割を持ち社会に貢献している方も大勢おられる。

そのような、本市の財産ともいえる存在を、子供たちの成長過程に合わせて、学校教育に積極的に活用することで、勤労観や職業観を育むことができるのではないか。

本市にある、企業、団体や、社会の様々な分野で活躍している方を教育の場で活用していく考えは。

<答弁者：松井 教育長>

教育の場における社会人の活用は、勤労の意義や、働く人々の様々な思いを直接感じ取る機会となることから、大変有意義である。

このことから、小中学校においては、PTAや地元企業などの協力を得ながら、助産師や伝統工芸士、保育士など、地域人材を活用した出前授業等を学校の実情に応じて、計画的に実施しており、子どもたちは、働くことや社会貢献の意味について、考えを深めているところである。

今後、キャリア教育の一層の充実のため、各学校が、地元経済団体との連携を図るなど、幅広い取り組みができるよう、管理職研修会等を通じて啓発していく。

◆次世代育成対策について

○公園および広場の設置や整備にあたり、地域間での適正な配置に対する方針

<質 問>

「高松市子ども未来計画」の後期計画では、子育てを支援する生活環境の確保として、子どもの遊び場の整備を掲げている。

子どもの遊び場整備では、身近な場所でのびのびと遊べるよう、街区公園、ちびっこ広場等を設置しているが、公園の設置には、用地の確保や土地所有者の協力、適正配置などが課題である。

そのような現状を踏まえ、子どもが安心して集える安全な遊び場の拡充を図ることを基本方針とし、地域間での適正な配置に考慮しながら、土地区画整理事業等も活用する中で、公園やちびっこ広場の拡充を図ることとしている。

子どもたちの移動手段は限られており、地域の中に街区公園やちびっこ広場があることは、子どもの健全育成にとって非常に重要であると考えている。

公園および広場の設置や整備にあたり、地域間での適正な配置についてどのような方針であるか。

<答者弁：今井 都市整備局長>

街区公園は、子どもから高齢者までの幅広い年齢層に、レクリエーション活動、健康増進、地域の交流・連携の拠点として利用されており、重要な施設である。

本市では、平成22年9月に策定した「第二次高松市緑の基本計画」において、「一小学区一公園」を目標に掲げ、街区公園を始めとする各種公園の整備に取り組んでいるところである。

今後とも、「一小学区一公園」を目指して、新たな公園の整備に取り組むとともに、必要に応じ、ちびっこ広場を活用しながら、子供が安全・安心に遊べる環境づくりに努める。

活動日記



4/7 木太保育所 入所式



3/16 木太小学校 入学式



4/12 木太北部幼稚園 入園式



4/15 百寿会 総会



4/25,26 政治専科研修 (静岡)



5/1 第83回香川県メーデー中央集会



5/26 木太中学校 運動会



5/31 四国電力坂出發電所 視察



6/5 有志議員 学習会



6/23 木太南校区子ども会フットボール



6/24 高松市総合防災訓練



6/28 四電工労組香川県支部 活動報告会

発行:大西さとし後援会

<http://www.ohnishi-satoshi.jp>

◆後援会連絡所

〒760-0050

高松市亀井町 7-9 高松電気ビル7階

TEL(087)837-2777 FAX(087)837-8783

◆後援会事務所

〒760-0080

高松市木太町 1849-1-602

TEL 090-8696-1730

